

■増田甲斎(橘耕斎)
ますだこうさい
・ ・ ・ ・ ・ 1820＝

掛川藩士。脱藩し、ロシアに密出国、露日辞典「和魯通言比考」を完成させ、ロシア人となった。

掛川藩士立花四郎右衛門の次男に生まれる。本名は橘耕斎。

シベリア追放・1829＝9歳：

大塩平八郎乱1837＝17歳：
適塾ホーン・1838＝18歳：

藩主太田資始からの特命で、隠密となるものの、

阿部正弘首座1845＝25歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1847＝27歳：

殺人したり、放蕩三昧で、藩を追放され、博徒の頭目となって何度も投獄されたりするうち、

身を隠すためか、出家して僧侶姿で、伊豆の下田に向かったところに、

ペリー来航・1853＝33歳：
開国開港・・1854＝34歳：

*プチャーチンを全権とするロシアの使節団のディアナ号が来航、長年の夢ロシア行きのチャンスと、ロシア人の中国語通訳ヨシフ・ゴシケビッチと知り合う。露日辞典を編纂を企図していたゴシケビッチが、日本人の協力者を求めている、上層部に強力に推薦してくれ、ロシア側の入国を認められるが、日本からの出国はできないため、

安政大地震・1855＝35歳：
松下村塾・・1856＝36歳：

安政大地震で大破したディアナ号に代って使節団を本国に帰すべく戸田に来航したロシア船グレタ号の荷物に隠れて密出国したものの、オホーツク海で、クリミア戦争でロシアと交戦中のイギリス艦に拿捕され、乗員全員とともに、香港に移送され、4ヶ月の拘留の後、イギリスに向かい、ロンドンに到着。クリミア戦争は終結していて、全員釈放となり、ゴシケビッチに連れられ、パリから鉄道を乗り継いで、首都ペテルブルグに到着、ヨーロッパ経由でロシア入りした最初の日本人となる。ロシア外務省アジア局の臨時職員に採用され、ゴシケビッチとすでに始めていた露日辞典の編纂業務に従事、協力者橘耕斎として、*露日辞典「和魯通言比考」が完成、漂流民ゴンザが作った薩摩弁の辞書はあったが、ロシア人が日本人と共同し、普通の日本語に近い語でつくられた最初の辞書となる。その功で、皇帝アレクサンドル二世より、褒賞金と官位を与えられ、外務省の正式な役人となる。

五ヶ国条約・1858＝38歳：

*ロシア国籍を得るため、ロシア正教会で洗礼を受け、ロシア人ウラジーミル・ヨシフォヴィチ・ヤマートフとなった直後、最大の理解者ゴシケビッチが初代箱館ロシア領事になる一方、日本ではかつて仕えた藩主太田資始が老中に返り咲く。

桜田門外変・1860＝40歳：

その後は、ゴシケビッチからは頻繁に公電が入るほか、私信も送られてきて、日本の情勢も手に取るように分かるようになるものの、両国関係は改善されないなか、

生麦事件・・1862＝42歳：

来訪した徳川幕府の最初の遣欧使節団を外務省接遇員として迎える。団員だった福沢諭吉が、迎賓館の各部屋に、「和魯通言比考」のほか、書道具、刀、タバコなど、多くの日本のものがキチンと取りそろえられているのに驚嘆しているように、行きとどいた配慮を示すなど、日本から来訪する使節団等の接遇にも努め、

薩摩藩士密航1865＝45歳：
薩長同盟・・1866＝46歳：

ゴシケビッチの進言で、徳川幕府が派遣した身分の高い幕臣の子ばかり6人の留学生が来訪、帰国していたゴシケビッチの家に宿泊した際、登場して驚かせた後、彼らと酒を酌み交わして歓談、以後、彼らの滞在中のあらゆる面倒を見て、感謝されている。その後に倒幕派の薩摩藩が派遣し変名で密出国した森有礼らが来訪した際にも、かまわず歓談しているが、いずれの時も、本名や本心を明かすことは無かったという。

明治維新・・1868＝48歳：
初の日刊新聞1870＝50歳：
明治6年政変1873＝53歳：

ペテルブルク大学に日本語学科が開設され、講師に迎えられる。

来訪した岩倉使節団を接遇した際、岩倉具視に過去は問わないから日本のために尽くしてくれと説得され、ロシア政府の許可も問題なく降り、

佐賀の乱・・1874＝54歳：

*約束の教壇には最後まで立った後、帰国。明治政府により芝の増上寺の隅に住居を与えられ、仏門に入っ

て、増田甲斎と改名。以後、世に出ることなく、ロシア政府からの年金で暮らし、

明治14年政変1881＝61歳：
岩倉具視没・1883＝63歳：
内閣発足・・1885＝65歳：

没した。